

第10回学生のヒマラヤ野外実習ツアー（2022年3月）実施報告

吉田勝（ Gondwana 地質環境研究所）



図1. ポカラのセティコーラ河原でアンナプルナ連峰をバックに SHET-10 一行
(宗近俊祐君提供)

表題の実習ツアー（SHET-10）は2022年3月3日～19日の17日間、中西部ネパールヒマラヤで実施された。出発当時は新型コロナウイルス感染症のパンデミック対策として外務省によりネパールは感染危険度レベル3とされて渡航中止勧告対象国とされていたため、実施の可否には慎重な検討を要した。

当初筆者は、参加希望学生が居る限り実習ツアーを実施したいと考えていた。実施キャンセルとなると、彼らは2度とヒマラヤを訪れる機会がなくなる可能性が少なくないだろうとの考えであった。そこで、外務省の渡航中止勧告レベル3「どのような理由であれ渡航を中止して下さい」の時は原則として中止を基本方針としつつも、現地情報を併せて慎重に検討することとし、参加者に周知していた。外務省による出入国に関わる対策はいつでも変わり得るので、出発予定日の

2週間前の外務省情報と現地の情報等を勘案して決めることとしていた。

出発2週間前を控えた2月15日頃から19日にかけて実習ツアー共催機関のトリブバン大学地質学教室主任教授や現地旅行社を含む多くの現地の友人らから、ネパール国内では感染のピークは完全に収まり、市内も大学も平常に戻っており、実習ツアーにまったく問題は無いとの連絡が入った。現地の日本大使館とも連絡をとり、訪ネに問題ないことは確実と判断された¹。

当時ネパールではすでに感染危険度の指標とされる新規感染者の対人口割合は日本の50分の1程度になっており、外務省の勧告のもととなったネパールのデータは2月以前の古いものであることも判明し、勧告は実態とかけ離れたものになっていると判断された。そのような勧告によって参加登録学生のヒマラヤ実習の希望をつぶすことがあってはならないであろう。以上の判断により2月20日、実習ツアーの実施を決定した。

SHET-10の実施予定は2021年5月に Gondwana 地質環境研究所ホームページで公開され、8月～9月の2学会でポスター掲示で発表され、10月には関係者らへのメール情宣を行うと同時に全国72大学の地学関係教室・学科に参加者募集ビラの掲示をお願いした。8月～12月にかけて参加希望者・問い合わせの学生は十数人あり、12月末には参加申込金を支払って参加登録をした学生は9人となった。さらに国際 Gondwana 研究連合が参加費を支援する中国青島の海洋大学修士課程院生が参加登録した。しかし、1月からオミクロン株による感染が世界的に拡大し始めたため、2月下旬には中国の学生を含めて5人が参加をキャンセルした。

2月20日に実施決定とその根拠を参加登録者らに周知し、参加意思の最終確認をしたところ全員が参加意思を表明し、日本学生5人の参加者が確定した。ネパール側ではトリブバン大学の教員、学生各1人の参加が確定し、実習ツアーチームは引率指導教員日ネ各1人と学生6人の総勢8人となった。

以上の経過を経て3月1日～2日にかけて、参加学生5人全員が和歌山県橋本市のGIGE本部に集合・宿泊し、2日に大阪でPCR検査を受けて3日に全員陰性との国際証明書を受け取った。メンバー全員はワクチン2度接種を受けており、日本における現存感染者割合、PCR検査陰性判定の正確度およびワクチン2

¹ 在ネパール日本国特命大使に対して、本国の外務省と厚労省に対してネパールの実情を説明するようにお願いした。日本人のネパール訪問時のネパール入管や検疫検査の実施状況についての回答は得られたが、本省等との折衝状況についての回答は得られなかった。

度接種者の被感染確率から、SHET-10 メンバー内に感染者が存在する確率はゼロに近いと判断され、メンバー内での密接は問題ないとした。

3月3日深夜、SHET-10 チームは全員そろって関西空港を出発した。シンガポール乗り換え、カトマンズ入国も COVID-19 関係のいろいろな関門をクリアでき、3月4日深夜、カトマンズのホテルクラウンプラザに入った。各空港と航空機内はウイルス検査陰性が証明された人たちしか存在せず、日本国内よりはるかに感染危険度が小さいことは明白であったが、メンバー全員、飲食時には十分の注意を払うようにした。

3月5日、離日前のネパール側の多くの情報通り、ネパール出入国管理局公示の入国後24時間以内の抗原テストや5日間のホテル拘束はなく、またカトマンズ市内はすべての制限は取り除かれており自由そのものであった。午前中、トリチャンドラキャンパスで同大学の教員・学生数十人も参加してプレツァーセミナー、午後は同大学の学生7人と共にプレツァー市内見学ツアーを行った。



図2. スワヤンブナートツアー、コロナから解放されたネパールの雰囲気・・・
(板倉義空君提供)

18時から同大学地質学教室の教員ら4人とツアーガイド1人を加えて大学近くのナングロ会食店で懇親・夕食会、メンバー各自は英語で自己紹介を行った。

3月6日～15日は例年通り、カトマンズ～ポカラ（泊）～カロパニ（泊）～ムクチナート～カグベニ（泊）～カロパニ（泊）～タトパニ（泊）～ポカラ（2泊）～タンセン（泊）～ルンビニ（泊）～カトマンズのコースを小型バス／ハイエースで辿り、15日にカトマンズに帰着した。実習ツアーのテキストは例年通り英文の Yoshida and Ulak(2017)²を使用した。

コースの途中、すべての道路で舗装が進んでいたが一方、工事中が多く、土埃と通行止めや渋滞は例年通りひどいものであった。地学実習の内容は例年通りであった。

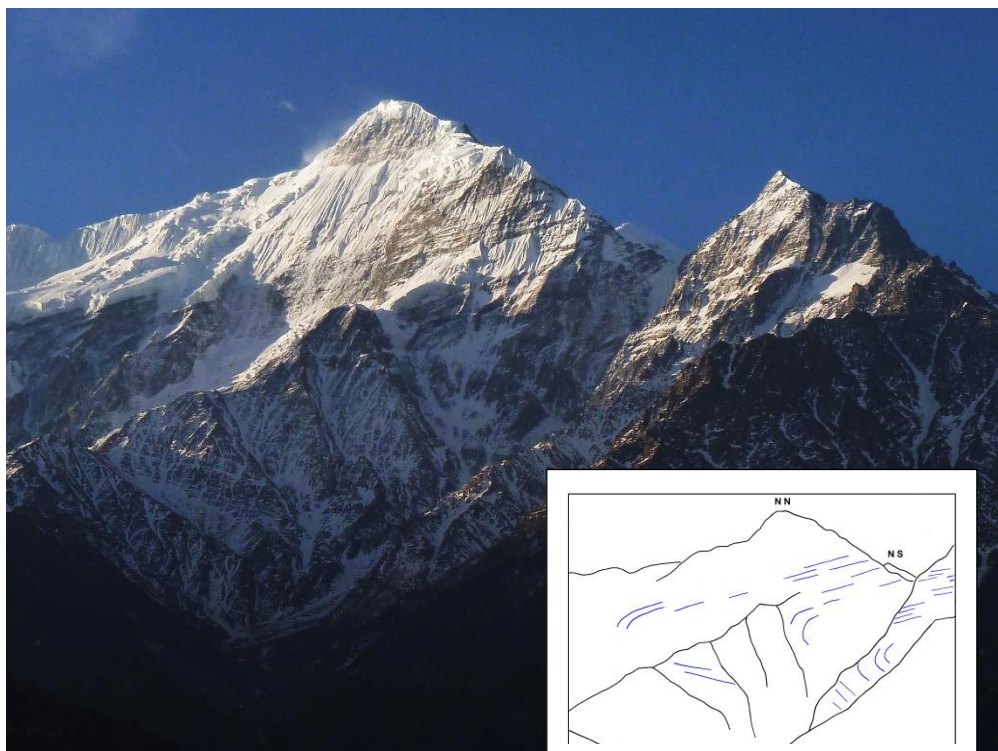


図3. ニルギリ峰北壁に刻まれている巨大横臥褶曲構造

学生らはカトマンズ西方マハバラート山脈山腹の多数の崩壊跡、ポカラの街に迫る見事なアンナプルナ連峰、ジョムソン背後の秀麗なニルギリ峰北壁に刻まれた巨大な横臥褶曲構造、ムクチナート周辺の氷河地形、カリガンダキ河に沿って

² Yoshida, M. and Ulak, P. D., 2017, Geology and Natural Hazards along Kaligandaki and Highways Kathmandu-Pokhara-Butwal-Mugling—Guidebook for Student Himalayan Exercise Tour. GIGE Misl. Pub. 35, Field Science Publishers, Hashimoto, 145 pages.

分布する膨大なモレーン堆積物など日本で得られない初めての景色・経験に感激に次ぐ感激の日々であった。



図4. 古生代テチス層群中の横臥
褶曲軸部を構成する石灰岩層



図5. ジョムソン南方で氷河湖堆積物に覆われる膨大なモレーン堆積物

なお、今回のツアーでは、新たな発見が以下の3点あった。①実習ツアー2年間の間隔の故か、山地の斜面崩壊が多く見られたこと、②工事のため、ここ数年大きな露頭で詳細に観察できた大断層（STDS）露頭が消失していたこと、③カ

リガンダキ河における過去の氷河U字谷／V字谷変換点はレテ周辺と判断され、U字谷は最新世に埋没したという新しい明確な解釈を得たことである。

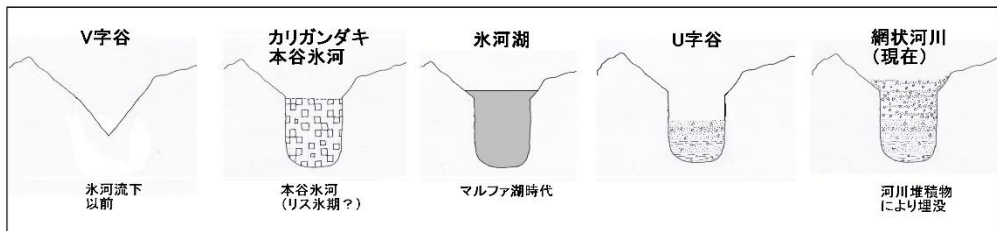


図6 カリガンダキ河本谷氷河谷の発達過程の模式図

なお、3月11日にはポカラ市内の中華レストラン蘭花で元気回復夕食会を行い、全員大いに意気があがり、ツアー後半に向けて心身のリフレッシュができた。

3月16日、午前中は各自発表準備、午後はトリチャンドラキャンパスで報告会を同大学の教員・学生十数人の参加を得て行った。学生らは全員が英語、パワーポイントで発表し、質疑応答も行った。全員初めての英語での“国際発表”であったが、皆例年より大声でわかりやすく、良い発表ができた。同日夕方にはお別れ懇親・夕食会で、ネパール側教員5人を招待してタメルの日本食レストラン桃太郎で大いに盛り上がった。

3月17日はPCR検査で、日本入管の指定フォームの証明書を発行するHAMS病院から医師が出張検査に来て、夕方7時、全員陰性の報告を受けた。重圧を解き放たれたチーム全員、大いに盛り上がって大乾杯であった。

3月18日は1日中TU学生7人の案内で市内見学会の後、20時半に空港に到着、岩石サンプルの持ち出しでセキュリティー相手に1時間以上押し問答を繰り返した後³、23時15分に無事カトマンズを飛び立つことができた。シンガポール空港の検疫ゲートは簡単にパスし、19日深夜に関空に降り立った。

空での検疫・入管の検査は詳しく煩雑を極めたものだった



図7. ホテル日航で“監禁”を解かれて喜びの学生達

³ 大学の地質学教室からのレターを示したが、来年からは地質鉱産局からのレターでなくてはいけないと厳しく言われた。

が、なにはともあれ全員無事にパスし、ホテル日航関西空港に収容され、刑務所もどき(?)の“監禁”3日間後の22日午後、抗原検査の陰性結果を得て解放された。

なお、今回はコロナ問題のために航空運賃が従来の2倍となり、高額のPCR検査・証明費用やネパール国内経費の高騰もあった。このため学生の参加費が公約の20万円を大幅に超えることは避けられないと思われたので、意を決して「学生ヒマラヤプロジェクト」のクラウドファンディング(インターネットによる募金公募)に挑戦してみた。幸いに開始間もなく目標額に到達することができたが、残部が僅少となり絶版となった実習ガイドブックの改定・増刷と来年度の実習ツアー参加費補助のため、クラウドファンディング(<https://readyfor.jp/projects/88329>)を4月19日まで延長することとした。ご賛同、ご興味の会員の皆様にはぜひ上記URLからプロジェクトを覗いてみて下さい。

最後になりましたが、この実習ツアーの成功は本プログラム推薦者と引率・指導登録者の皆様、ご後援頂いた日ネの5学会、クラウドファンディングでご支援下さった皆様、そのほか暖かく見守って応援下さった多くの皆様のおかげです。皆様方に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

以上